



令和6年度 3月

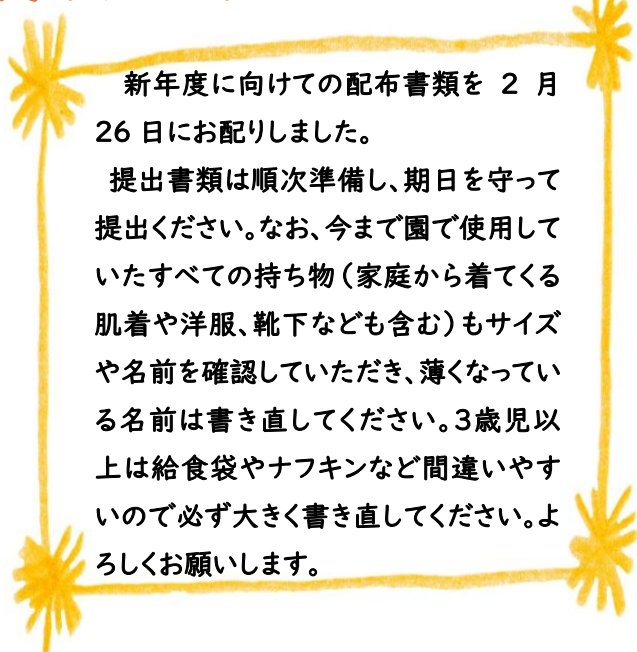
みつづかこども園

1年間ありがとうございました

## 春分の日

ちょうど昼と夜の時間が同じで、太陽が真東から昇って真西に沈み、春を真ん中で分ける点に当たるので「春分」といいます。つまり太陽はこの日に赤道と黄道の交差点を通ることになり、これ以降は徐々に北半球に向かいます。また、日本ではこの春分の日を真ん中にした一週間を彼岸といい、昔からお寺参りや墓参りの習慣があります。正月は神事を中心とした行事ですが、彼岸には仏事を中心とした行事が行われ、家庭では仏をまつり祖先の霊を慰めます。今年3月20日です。

「暑さ寒さも彼岸まで」といわれますが、このころ大陸性高気圧が次第に衰え、移動性の高気圧となって日本を覆い始めるので、寒気が弱まり南風や春雨が訪れます。ちょうどこのころになると、農家は忙しくなります。春蒔きの野菜の作業や、植え付けなどが開始されますが、このように春分の日は「巡る春をたたえ、生きとし生けるものを慈しむ」という意味においても、何となく人々の生活の喜びに通じるものがあります。



新年度に向けての配布書類を2月26日にお配りしました。

提出書類は順次準備し、期日を守って提出ください。なお、今まで園で使用していたすべての持ち物(家庭から着てくる肌着や洋服、靴下なども含む)もサイズや名前を確認していただき、薄くなっている名前は書き直してください。3歳児以上は給食袋やナフキンなど間違いやすいので必ず大きく書き直してください。よろしく願います。

## 行事予定

3日(月)	交通安全指導
7日(金)	お別れ遠足(5歳児)
12日(水)	英語で遊ぼう(4・5歳児)
14日(金)	発育測定・交通安全指導
21日(金)	保育料引落日・避難訓練
22日(土)	卒園式
25日(火)	終わりの式

自分の番 相田みつを

自分の番 いのちのバトン

うまれかわり

父と母で二人

死にかわり永遠の

父と母の両親で四人

過去のいのちを

そのまた両親で八人

受けついで

こうして数えてゆくと

いま自分の番を

十代前で、千二十四人

生きている

二十代前では――?

それがあなたの

なんと、百万人を超すんです

いのちです

過去無量の

それがわたしの

いのちのバトンを

いのちです

受けついで

いま、ここに

自分の番を生きている

それがあなたのいのちです

それがわたしのいのちです

## 母の教え

少年時代の私は今以上に口下手で人から何か言われると口ごもってしまうような子でした。ただ、このときだけはクラス中の注目を浴びるという瞬間がありました。図画工作の時間です。同じクラスにこれまた絵の好きな山口君がいて、図画工作の時間になると級友たちは、どちらの出来映えがよいか批評し合っていました。そんな私を支えてくれたのは母でした。5年生のとき、大垣駅の保線工事を写生しに連れて行ってくれたのも母なら、6年生のとき、町工場で電動工具の花火を飛ばして部品を作る方に頼み込んで写生させてくれたのも母でした。決して高学歴でなく絵の嗜みがあったわけでもありませんが、他に何の取り柄もない息子がやりたいということをとことんやらせてやろうとしてくれたのでしょ。そんなことが、後々美術教師になることにつながっていったようです。

誰にでもこれが好きだというものがあるでしょう。それがどんな小さなことでも他の人から見てつまらないことでもいいです。それを伸ばしていただければと思います。

園長 小藪 達也